

推薦する取り組み	園館名
地下伏流水を再現した飼育設備によるマホロバサンショウウオの繁殖	世界淡水魚園水族館 アクア・トトぎふ

推薦理由

現在、日本では小型サンショウウオの仲間が 44 種も生息しており、その多くが絶滅危惧種に指定されています。小型サンショウウオは産卵場所として利用する環境から止水産卵性種と、流水産卵性種の 2 つに分けられます。止水産卵性種と比べ、産卵場所環境の再現が難しいことから流水産卵性種の飼育下繁殖例はほとんどありません。マホロバサンショウウオは流水産卵性種に含まれ、地下伏流水中に産卵するため繁殖生態も不明な点が多く、当然飼育下繁殖例もありませんでした。そこで、飼育下繁殖に取り組むにあたり、産卵場所環境の再現が重要と考え飼育設備を考案しました。

まず普段飼育する場所(飼育槽)とは別に、繁殖場所として暗幕で覆ったプラスチック製の小さなコンテナ(繁殖槽)を設置し、2 つを塩パイプで繋げました。また、繁殖槽には冷却した水を注水し、その水は繋げたパイプを通して飼育槽に流れ込むようにすることで、飼育槽に地下伏流水が流れ出るような場所を簡易的に再現しました。これらの飼育設備と野外調査や文献によるデータをもとに 2009 年より飼育下繁殖に取り組みを開始し、2011 年に繁殖に成功しました。その後も同様の飼育設備で継続的な繁殖に成功しており、2019 年には待望の飼育下 3 世代目も得ることができています。これらの結果から、この飼育設備が本種の繁殖生態にマッチしたものであると考えられます。

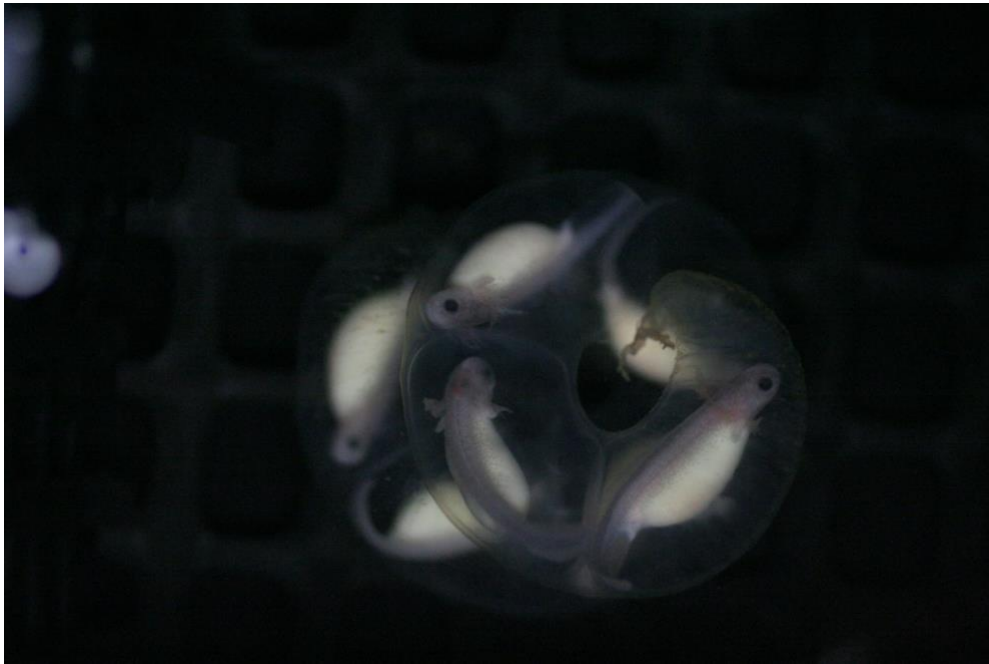
野外において本種の繁殖行動を観察することは非常に困難であり、卵や幼生を発見すること自体が難しい生物です。飼育下における行動観察も生態解明に役立つと考え、赤外線ビデオカメラによる繁殖行動の記録も実施しています。なお、本種は 2019 年に新種記載され、その記載論文に掲載されている卵や幼生の写真もこの飼育設備で誕生した個体です。研究分野においても貢献できていることも大きな成果と考えています。



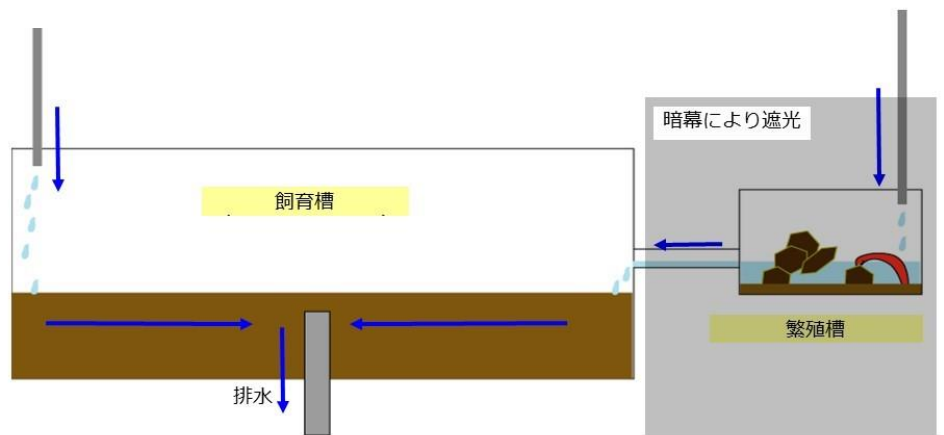
飼育槽内



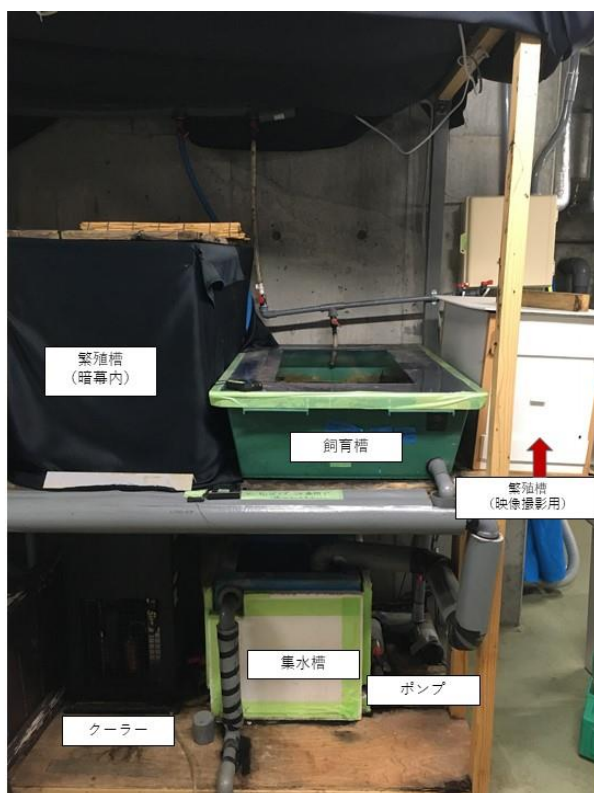
繁殖槽内



卵囊



飼育設備図



飼育設備